

令和元年度
「ほっかいどう遺産WAON」
助成活動報告



2020年6月3日
NPO法人北海道遺産協議会

令和元年度「ほっかいどう遺産WAON」助成先一覧(計14件500万円)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	天塩川	流域市町村	テッシ・オ・ペッ賑わい創出協議会	天塩川カード(松浦武四郎)カード事業【音声ガイドの導入】	500,000
2	北海道の馬文化	北海道各地	北海道和種馬保存協会	北海道和種馬による高齢者・障がい者乗馬推進事業	500,000
3	大友亀太郎の事績と大友堀遺構	札幌市	札幌村郷土記念館保存会	大友堀床貼航空地図作成・関連行事	500,000
4	増毛山道と濃層山道	増毛町、石狩市	特定非営利活動法人増毛山道の会	増毛山道の歴史、管理、広報、ツアーを網羅するパンフ作成	400,000
5	アイヌ語地名	北海道各地	一般財団法人北海道歴史文化財団	北海道遺産「アイヌ語地名」の普及・啓発事業	400,000
6	宗谷丘陵の周氷河地形	稚内市	一般社団法人稚内観光協会	宗谷丘陵白い道フットパス体験と白い道保全体験ツアー	400,000
7	松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡	北海道各地	松浦武四郎研究会	松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡を普及するパネル展の開催	400,000
8	利尻島の漁業遺産群と生活文化	利尻島	利尻しまじゅうエコミュージアム	「りしり遺産」魅力発信事業	400,000
9	北海道の馬文化	北海道各地	新ひだか国際馬力綱引き実行委員会	日高の馬文化と祭りの融合～新ひだか国際馬力綱引き選手権大会	350,000
10	しかべ間歇泉	鹿部町	鹿部町	道の駅しかべ間歇泉公園洞窟の道内「間歇泉説明パネル」整備事業	300,000
11	旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群	上士幌町	NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会	観光トロッコ 夜汽車 実験事業	250,000
12	開拓使時代の洋風建築、屯田兵村と兵屋、旭橋、旭川家具	札幌市、北海道各地、旭川市	株式会社シービーツアーズ	北海道遺産の旅「永山武四郎の足跡を訪ねて」バスツアー	200,000
13	空知の炭鉱関連施設と生活文化	空知地域	みかさ炭鉱の記憶再生塾	みかさ炭鉱の記憶再生塾活動紹介パンフレット作製	200,000
14	小樽の鉄道遺産	小樽市	NPO法人北海道鉄道文化保存会	北海道の鉄道発祥の地小樽の街を鉄道遺産のオープンミュージアムに	200,000

1.天塩川カード(松浦武四郎)カード事業【音声ガイドの導入】

- 実施主体：テッシ・オ・ペッ賑わい創出協議会
- 実施団体URL：<http://www.city.nayoro.lg.jp/>（名寄市HP）
- 助成額：500,000円

一活動内容一

①天塩川（松浦武四郎）カード

前年度作成したカードの内容修正及び増刷を実施。各市町村主要施設（庁舎・道の駅等）にて配布を行い、観光客に実際に足を運んでもらうことで地域の歴史・文化を多くの方に知つもらう取組を引き続き実施した。

②音声ガイド

カード内容をさらに充実させた音声ガイドを導入。松浦武四郎所縁の地である天塩川周辺11市町村及び三重県松阪市の所定場所に行き、音声ガイドのサイトにアクセスするとガイドが視聴できるシステムを構築した。令和元年8月より音声ガイドサイトを公開。広くPRするため、チラシ・ポスターの印刷配布の他、歴史雑誌「歴史人」12月号に広告出稿を行つた。



遺産の名称：
「天塩川」（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となつたテッシ(アイヌ語で「梁」(やな)の意味)が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

2. 北海道和種馬による高齢者・障がい者乗馬推進事業

- 実施主体：北海道和種馬保存協会一
- 助成額：500,000円

一活動内容（概要）一

- 北海道和種馬を使用し、乗馬経験のない（少ない）高齢者（65歳以上）対象の介護予防乗馬について、日本医療大学の協力並びに北広島市輪厚所在のホースフィールドワツ（北海道和種馬の生産及び北海道和種馬を使った一般向けの乗馬や道央流鏑馬会を主宰）の協力を得て開催。乗馬による介護予防の可能性及び地域における北海道和種馬存在認識と活用を図り地域振興にも資するべく実施した。
- 乗馬会は9月から毎月第2・4水曜日、1月～3月は、天候を見ながら月1回実施
- 参加者は継続して参加できることを条件に定員10名で募集したが、任期があり12名で実施
- 新型コロナウィルス感染症の影響で「振り返る会」は延期となった



遺産の名称：
「北海道の馬文化」
(北海道各地)



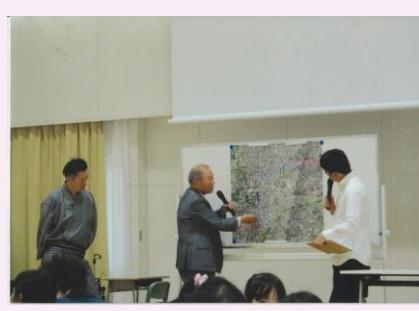
北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦労をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市のみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

3. 大友堀床貼航空地図作成・関連行事

- 実施主体：札幌村郷土記念館保存会
- 助成額： 500,000円

一活動内容（概要）一

- 札幌村郷土記念館の来館者に、大友堀がどこにあったのかがわかりやすいよう、現在の航空地図上に大友堀の跡を表示した2m×2mの床貼り地図を作成した
- 設置後、小学生の地域学習などで子どもたちが訪れたり、まちあるきイベントなどで団体が訪れるなどしたがわかりやすいと大変好評だった
- 東区の児童会館で実施された多世代交流の会で、航空地図の画像を使って大友堀について説明を行い、記念館に大きな地図があることを皆さんに知っていただいた
- 地図の完成記念として、11月16日にシンポジウムを開催。大友亀太郎の子孫である、五代目大友隆之さんにもお越しいただき、定員の100名を超える方の参加のもと開催した
- 地図のおかげで見学者の方によりわかりやすい説明ができるようになり、見学者の方々からも地図を見たことでいろいろな話をしてもらえる機会が増えた



遺産の名称：
「大友亀太郎の事績と大友堀遺構」（札幌市）



北海道開拓の中心である札幌の開基は、幕末の大友亀太郎の札幌村建設と大友堀の開削に始まる。大友は慶応2(1866)年に本州土木技術の後継者として大友堀と札幌村建設を主導した。堀は4kmに及び、その一部は現創成川として残り、これは島義勇による札幌の東西の起点となった。大友は明治3(1870)年に札幌を去ったが、その事績は札幌市東区の札幌村郷土記念館内大友関連展示と文書資料で見られる。

4. 増毛山道の歴史、管理、広報、ツアーを網羅するパンフ作成

- 実施主体：特定非営利活動法人増毛山道の会
 - 実施団体URL：<http://www.kosugi-sp.jp/sando/top.html>
(NPO法人増毛山道の会HP)
 - 助成額：400,000円

一活動內容一

- 全8回のトレッキングや増毛中学1年生の課外体験学習、パネル展、講演会等の事業を実施。都度、ガイドマップを使用してその歴史や、そこに生きた人々の暮らしを入れたストーリーとして参加者に話をし、地域の歴史として感動を受容していただいた



遺産の名称：
「増毛山道と濃眉山道」
(増毛町、石狩市)



開削から160年余の歳月を経て、3mを越すクマイザサの中に埋没し、記憶の彼方からも消え去ろうとしていた「増毛山道と濃昏山道」。近世北海道の開拓遺産として、大きな意義があると確信した地域住民を中心に、復元行動を開始して約10年、遂に2016年に全線復元した。近代化に果たした歴史的役割や機能を体感できる遺構。

5. 北海道遺産「アイヌ語地名」の普及・啓発事業

- 実施主体：一般財団法人北海道歴史文化財団
- 実施団体URL：<http://www.kaitaku.or.jp/zaidan/hokkaidorekibun.htm>
(北海道歴史文化財団HP)
- 助成額：400,000円

－活動内容－

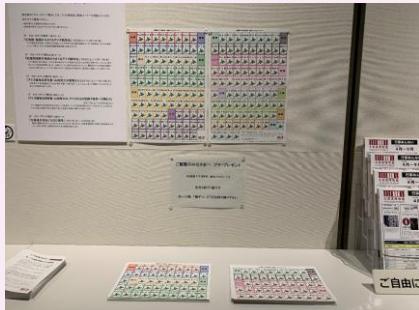
- アイヌ語地名について正しい理解を促進し、将来へとつないでいくため、北海道博物館第5回特別展「アイヌ語地名と北海道」の開催に合わせ次の取組を行った

【アイヌ語地名の普及啓発グッズの作成・配布】

- ・北海道の地名しりとりシートの作成
- ・北海道の地名パンフレット（開拓の村建物ゆかりの地名シート）の作成
- ・アイヌ語地名クリアシートの作成

【北海道地名クイズ王決定戦の開催】

- ・より多くの層にアイヌ語地名への関心を深めていただく機会を創出するため、イベント「北海道の地名・子どもクイズ大会」と、本戦の「北海道地名クイズ王決定戦」を行った。



遺産の名称：
「アイヌ語地名」（北海道各地）



北海道の地名の多くはアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語地名の多くは、知らない場所でも、その名から地形や位置づけが分かるものとなっている。現在は片仮名や漢字で表記され原音と異なる場合もあるが、本来はアイヌ民族の自然と調和した伝統的生活の中から歴史的に形成された。アイヌ文化の自然観などを理解する重要な手がかりとなっている。

6. 宗谷丘陵白い道フットパス体験と白い道保全体験ツアー

- 実施主体：一般社団法人稚内観光協会
- 実施団体URL： <http://www.wakkai.hokkaido.jp/>
(稚内観光協会HP)
- 助成額：400,000円

一活動内容一

- 当事業では観光繁忙期の7月1日～9月30日の期間中、「日本てっ�んのインフォメーションセンター」として、BaseSoyaを設置し、観光客への情報発信やレンタサイクルの貸出、カフェ設置などにより滞在時間の延長を図った。
- 今期は新規に有償での「地元ドライバーガイドとめぐる宗谷丘陵、白い道ウォークツアー（助成対象活動）」を実施。「北海道遺産」である宗谷丘陵のPRと併せて、ツアー参加者にホタテの貝殻を「白い道」に撒いて頂き、自然景観保護と環境保全に協力を頂いた。

《事業実績》

- ①レンタサイクル受付業務：貸出実績50台
- ②地元ドライバーガイドとめぐる宗谷丘陵、白い道ガイドツアー：15名
- ③CAFÉ事業：3,750名利用
- ④インフォメーション、日本本土四極到達証明：2,338名発行



遺産の名称：
「宗谷丘陵の周氷河地形」（稚内市）



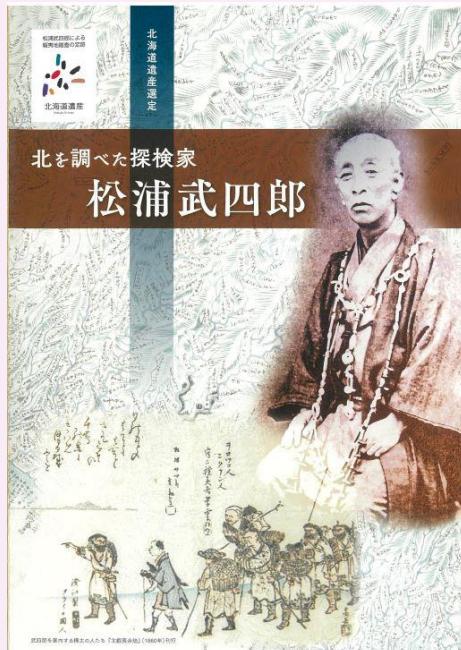
宗谷丘陵に見られるなだらかな斜面は、約1万年前まで続いた氷河期の寒冷な気候のもと、地盤の凍結と融解の繰り返しによって土がゆっくりと動くことでつくられたといわれており、周氷河地形と呼ばれる。周氷河地形は北海道に広く分布するが、宗谷丘陵では山火事によってその独特な地形が際立っている。日本最北端のこの丘陵には広大な肉牛牧場が広がり、夏季には豊かな自然に育まれた健康な黒牛が放牧されている。

7. 松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡を普及するパネル展の開催」

- 実施主体：松浦武四郎研究会
- 助成額：400,000円

一活動内容一

- 「松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡」を地域住民に親しんでもらうきっかけづくりとして、足跡図や各地にある記念碑等を紹介するパンフレットと足跡図のタペストリーを作成した
- 足跡図のタペストリーは全体図1枚と6回の踏査記録の図、合計7枚を作成した
- リーフレットやタペストリーを活かした展示と講演会を予定していたが、新型コロナウィルス感染拡大防止の観点から実施を見送った



遺産の名称：
「松浦武四郎による蝦夷地踏査の足跡」（北海道各地）



松浦武四郎 (1818-1888) は、アイヌの人たちの助言と協力を得ながら 6 度にわたって蝦夷地を探査した。膨大な報告書を幕府に提出したほか、明治政府に必要とされ開拓判官に就いた。武四郎の業績は、北海道の沿岸・内陸を問わず踏査し膨大な記録を作成したこと、蝦夷地に関する多くの書物を出版したこと、北海道の名づけ親としてまた、国・郡の範囲を定めその名称を選定したこと等が上げられる。

8. 「りしり遺産」魅力発信事業

- 実施主体：利尻しまじゅうエコミュージアム
- 実施団体URL : <https://rishiriecomuseum.wixsite.com/rishiriisland>
(利尻しまじゅうエコミュージアムHP)
- 助成額：400,000円

一活動内容一

【案内板等設置】

- りしり遺産の代表的な場所の一つである『泉の袋澗』に、当時の写真やイラストを使った説明看板を設置。QRコードを表示し、英語版の説明、及び『利尻しまじゅうエコミュージアム』のホームページにアクセスできるようにした。

【ワークショップ、体験学習会開催】

- 利尻産業遺産フォーラムと称し、講師の講演とワークショップ・体験学習会を開催した。
- ワークショップでは、24名の参加者も一緒に、利尻島に遺すべき『宝』は何か、その『宝』を次世代へどのように伝え、活用していくのかを考える良い機会となった。
- 『利尻島の漁業遺産群と生活文化』のパネル展を、学習会の会場と鶴泊港フェリーターミナル（12月11日～2月11日）で開催し、住民だけでなく観光客の方々にも、りしり遺産の魅力を発信することができた。
- フォーラムではアンケートも実施した。今後このアンケート結果をりしり遺産のさらなる発展に繋げていきたい。



遺産の名称：
「利尻島の漁業遺産群と生活文化」（利尻島）



日本最北の利尻島には、近世以降の漁業と移住の歴史を物語る漁業遺産群がある。近世には松前藩、近江商人による交易場所がおかれ、アイヌがそれを支えた。幕末以降は出稼漁民が松前や青森、秋田から渡り漁場を拓いた。その記憶は袋澗や番屋、石碑や獅子舞などに残っている。島の産物であった鯨は、北前船で本州に運ばれた。利尻島を行き来する海の道は「ヒトは北へ、モノは南へ」という交流史をつくりあげた。

9. 日高の馬文化と祭りの融合～新ひだか国際馬力綱引き選手権大会

- 実施主体：新ひだか国際馬力綱引き実行委員会
 - 助成額：350,000円

一活動內容一

- 新ひだか夏まつりの会場にて、人が馬のように四つ這いになり綱引きを行う「馬力綱引き選手権」を実施。
 - 5人一組で、参加チームは13チーム。参加チームのほか、応援・観戦等、多数来場した。
 - 企業・自衛隊・消防・高校野球部・ママさんバレーチーム・イオン静内店などの参加を得て、大いに盛り上がった。
 - 助成金で大会の備品・宣伝・商品等の充実を図ることが出来た。
 - 来年度も、今年度購入した備品等で開催が可能。継続したイベントとして実施していきたい。



遺産の名称：
「北海道の馬文化」
(北海道各地)



北海道の馬の歴史は古く、明治期には農耕など開拓の労働力として人々と苦労をともにしてきた。農耕馬の力を試したお祭りばん馬は「ばんえい競馬」に発展し、現在は帯広市ののみで開催されている。また、速さを求めてはサラブレッドの改良が進み、浦河町の「JRA日高育成牧場」では世界に通用する強い馬づくりに取り組んでいる。また馬産地・日高の牧場風景は観光資源にもなっている。

10. 道の駅しかべ間歇泉公園洞窟の道内「間歇泉説明パネル」整備事業

- 実施主体：鹿部町
- 実施団体URL： <http://www.town.shikabe.lg.jp/> (鹿部町HP)
- 助成額：300,000円

一活動内容一

- 北海道遺産に選定された「しかべ間歇泉」を地元の方々や観光客にもっと知つてもらうため、すでに設置されている間歇泉の仕組みや歴史を紹介するパネルの内容を精査、デザインを一新した。
- 近年外国人観光客が増加傾向にあることから、英語・中国語表記も加えた。



遺産の名称：
「しかべ間歇泉」 (鹿部町)



「しかべ間歇泉」は、大正13（1924）年、温泉の掘削中に偶然発見された。海の恵みを楽しみつつ湯治できる場として栄え、今日の“海と温泉のまち”を築いた。103度の高温の温泉が10分から15分間隔で約500ℓ、高さ約15mまで噴き上がる。発見されてからこれまで、衰退することなく一定の噴出間隔と温泉量を噴き上げている。代々、地域住民の手により大切に守り継いできた“地域の宝”は、鹿部の大地を潤し続ける。

11. 観光トロッコ 夜汽車 実験事業

- 実施主体：NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会
- 実施団体URL： <http://arch-bridge.sakura.ne.jp/>
(ひがし大雪アーチ橋友の会HP)
- 助成額：250,000円

一活動内容一

- 当会では、旧土幌線・糠平駅に線路を敷設、夏季に観光トロッコの運行を行っている。本事業では、夜間、線路の両側にランタンを設置してトロッコを運行する試みを行い、安全性・走行性・市場性などの検証を行った
- 9/4、9/27に観光関係者、糠平温泉宿の経営者、行政職員など35名が集まり、ランタン100個を設置してトロッコを走行させた。漆黒の暗闇の中ランタンの灯りを頼りにしての走行は日頃味わえない夜汽車の旅であり参加者は感激した
- 安全性、走行性については、周囲が真っ暗なので注意をして走行することや、乗客の控え場所の照明の確保の必要性などを確認した
- 市場性は大いにあると感じたので来年度以降イベント時などに走行を計画したい



遺産の名称：
「旧国鉄土幌線コンクリートアーチ橋梁群」
(上土幌町)



昭和初期に十勝内陸の森林資源の運搬を目的に建設された第1級の鉄道遺産。地元住民を中心とした活動で保存が実現された。中でも季節によって見え隠れする「タウシュベツ川橋梁」、32mの大アーチを持つ「第三音更川橋梁」が有名。地元NPOの保存・利活用へ向けての活発な活動は全国的にも市民活動のモデルとされている。

12. 北海道遺産の旅「永山武四郎の足跡を訪ねて」バスツアー

- 実施主体：株式会社シーアービーツアーズ
- 実施団体URL：<https://www.cb-tours.com/> (シーアービーツアーズHP)
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- 「屯田兵の父」と呼ばれ、北海道の開拓に大きな貢献をした永山武四郎。札幌、旭川に残る永山武四郎ゆかりの北海道遺産を訪ね、歴史について学びを深めるバスツアーを開催

・実施日 令和元年10月6日（日）

・参加人数 30名

・行程

中央バス札幌ターミナル→旧永山武四郎邸→旭川兵村記念館→上川神社（車窓）→昼食→旭橋（車窓）→北鎮記念館→旭川デザインセンター→氷川神社→帰札



遺産の名称：
「開拓使時代の洋風建築」
(札幌市) ほか



札幌市時計台や豊平館は、北海道開拓の初政をなった開拓使の事績を伝え、文明開化の先端をいった北海道の気風をよく表している。時計台は札幌のシンボルであり、近年は2階ホールが音楽会などの場として親しまれている。明治初期の洋風建築は和洋折衷型も含め、工業局庁舎、清華亭、永山邸、札幌農学校の農場建築などが遺されている。



北海道遺産
Hokkaido Heritage

13.みかさ炭鉱の記憶再生塾活動紹介パンフレット作製

■ 実施主体：みかさ炭鉱の記憶再生塾

■ 実施団体URL：

http://www13.plala.or.jp/isaya_g/coalmine/coalmine.html

（みかさ炭鉱の記憶再生塾HP）

■ 助成額：200,000円

一活動内容一

●幌内炭鉱変電所跡の見学者に配布し活動を身近に知ってもらうため、当会の活動紹介パンフレットを作成した

●イベントなどでも配布し、北海道遺産、再生塾の活動を広く知ってもらうためのツールとして今後も活用していきたい



遺産の名称：

「空知の炭鉱関連施設と生活文化」（空知地域）



空知地域は、最盛期の1960年代に約110炭鉱、約1,750万トンの規模を誇る国内最大の産炭地として、北海道開拓や日本の近代化を支えてきた。エネルギー政策の転換により1990年代には全ての炭鉱が閉山したが、立坑櫓や炭鉱住宅、独特の食文化や北海道踊りなど、今でもヤマ（炭鉱）に関する多くの記憶を残している。

14. 北海道の鉄道発祥の地小樽の街を鉄道遺産のオープンミュージアムに

- 実施主体： NPO法人北海道鉄道文化保存会
- 助成額：200,000円

一活動内容一

● 北海道遺産認定表示「プレート」制作、設置

「小樽の鉄道遺産」のひとつ、JR小樽駅に北海道遺産選定の証として、市民や観光客が出入りする玄関に、ブロンズ製の「プレート」を設置した

● 「小樽の鉄道遺産」周遊散策マップ制作

北海道で初めて鉄道が開通した旧手宮線跡には、多くの鉄道遺産が残っている。市民をはじめ観光客に大切な「宝物」を周知してもらえるツールになることを願い、市内観光施設やホテルなど、近郊の観光施設に配布した



遺産の名称：
「小樽の鉄道遺産」
(小樽市)



明治13年11月28日、小樽手宮一札幌間に、アメリカ人技師クロフォードの指導のもと、待望の鉄道が開通。2年後、幌内炭鉱に到達し、石炭の搬出が開始された。港一鉄道結節のまち小樽は急速に発展し、北海道の開発を先導するまちに成長。石炭から石油に、港も日本海から太平洋に移ったが、北海道の発展を支えた鉄道遺産は、国の重要文化財、鉄道記念物にも指定され、野外展示の約50両の車両を含め、鉄道技術の発展を示す貴重な近代遺産として保存されている。